

〔報告〕

性差からみた中学生の自己像とストレス対処行動の実態

池 邊 敏 子¹⁾ 石 井 康 子²⁾

How Junior High School Student's Self-Concept and Stress-Coping Patterns Differ as to Sex

Toshiko Ikebe¹⁾ and Yasuko Ishii²⁾

はじめに

中学生の不登校・いじめ・非行などといった問題行動の検討は、教育界のみならず精神保健・医療に関わる者、マスコミ、政治の分野などで幅広く行われている。

子どもから大人への移行時期である思春期は、第二次性徴の出現に伴う身体変化が心理的・社会的発達に大きく影響する。つまり、身体的成長、生殖器官の成熟は、他者が見る自己像、自分が感じる自己概念、個人の課題達成能力を変えていく。そのため、子ども期からの連続線上で自己を捉えるには、あまりにも変化が激しいことから、心理的に不安定な状態を来す。身体的成長は、自分を大人のように感じるが、社会的な扱われ方は子どもといった矛盾を感じる時期でもある。第二性徴の出現は、男女差があり女性の方が男性に比し早い。

一方、受験戦争という言葉に代表されるように、高学歴化を向かえ高校進学率が90%を越えた今日、進学・進学先の選択にあたってのストレスは多大のものである。また、少子化に伴う家族成員の変化は、親からの役割期待が集中してもたれやすい構造を呈している。

中学生という時期は、身体的な変化に伴い自己概念が揺らぐのみならず、社会的な様々なストレスにさらされ、親離れをしていくという多大な不安を抱えた時期である。そのため、精神保健上からみて重要な時期である。

このような不安定な状態にある中学生の自己像、ストレス対処行動を把握することは、今日の中学生の問題行動を精神保健の視点から検討する一助ともなる。前述したように、第二性徴の出現には性差があることに加え、

性差・性役割に伴う行動形成が思春期に顕著に出現することから、本稿では、性差を基に中学生の自己像とストレス対処行動を検討する。

I. 研究方法

1. 調査対象

1) 調査対象の抽出

調査対象は、全国の公立学校の10,497校の中学生4,380,604人¹⁾を地域差による偏りを考慮し、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州のブロックに分け、さらに、札幌市・仙台市・千葉市・川崎市・横浜市・名古屋市・京都市・大阪市・神戸市・広島市・北九州市・福岡市の各政令都市、東京都23区に分類した。さらに政令都市・東京都23区・市を都市部とし、町村を郡部として調査対象校を分類した。分類した中から調査協力が得られるか否かをあらかじめ打診した。対象数は、層化二段抽出による標準誤差の程度を参考に²⁾、結果10%の誤差が±1程度であることを基準に、3,000人を目安とした。57校に打診を行い、その中で、協力の得られた茨城県2校、千葉県1校、東京都3校、新潟県1校、福井県2校、広島県1校、福岡県1校、沖縄県1校の計12校の3,434名を対象とした。12校のうち全学調査に協力が得られたのは4校（合計生徒数2,581名）であり、他の8校は、一部の学年・学級（適応学級を含む）の協力であった。8校のうち7校の合計生徒数は3,246名であった。残り1校は、適応学級の生徒の協力であった。

1) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学講座 Community-based fundamental nursing, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 育成期看護学講座 Nursing of children and child rearing families, Gifu College of Nursing

2) 調査方法

調査対象校に調査票を送付し、各学級で担任教諭が調査票を配布した。調査対象本人が記入後、本人自身が調査票を封筒に入れ糊付けを行い封をし、担任教諭が回収した。

3) 回収状況と調査対象の特定

回収率は86.6% (2,975名) であった。このうち性別記載があった有効回答数は2,947名であった。本研究では、この2,947名を調査対象とした。福岡県の回答数は、2名と少ないが、今回地域別比較をしないことから分析に加えた。

2. 調査期間

平成11年11月～12月である。

3. 調査項目の選定

調査項目の選定にあたっては、深谷³⁾・三浦⁴⁾の調査項目、児童環境づくり等総合調査研究事業報告書⁵⁾を参考に教育実践現場担当者の意見を加味し作成した。

4. 調査項目

自己像 (20項目, 2段階評価), ストレス対処行動 (20項目, 2段階評価), 対人関係スキル (14項目, 2段階評価), 自分の気持ちを聞いてくれる人 (7対象, 5段階評価), つらいとき・悲しいときそばにいと落ち着く人 (7対象, 5段階評価) とした。

5. 分析方法

各調査項目を性別を基に百分率で比較し、 χ^2 検定を行った。

表1 調査対象の特徴

| | N=2,947 | |
|---------------|---------|-------|
| | 男子 | 女子 |
| | 51.9 | 48.1 |
| 学 年 | | |
| 1年生 (N=1,102) | 52.6 | 47.4 |
| 2年生 (N=1,086) | 52.7 | 47.3 |
| 3年生 (N=759) | 49.7 | 50.3 |
| 調査対象校の所在地 | | |
| 茨城県 (N=535) | 52.5 | 47.5 |
| 千葉県 (N=118) | 48.3 | 51.7 |
| 東京都 (N=687) | 52.1 | 47.9 |
| 新潟県 (N=112) | 52.7 | 47.3 |
| 福井県 (N=1,326) | 51.8 | 48.2 |
| 広島県 (N=65) | 52.3 | 47.7 |
| 福岡県 (N=2) | 0.0 | 100.0 |
| 沖縄県 (N=102) | 52.0 | 48.0 |

数値は百分率を示す

II. 結果

1. 調査対象の特徴

調査対象2,947名の性別をみると (表1), 男子1,529名 (51.9%), 女子1,418名 (48.1%) であった。学年別に見ると1年生が37.3%, 2年生36.8%, 3年生25.7%であった。

調査対象の地域を学校の所在地からみると (表1), 関東地方の対象者が1,340名 (45.4%) を占め, 中部地方が1,326名 (44.9%) と, 関東・中部地方で90.3%を占めていた。

2. 自己像

自己像に関する20の質問項目のうち, 「思う」と答えた割合の上位3位をみると (表2), 男子では1位「明るい」47.3%, 2位「友達が多い」41.1%, 3位「心がやさしい」34.8%であった。女子の上位3位は, 1位「明るい」54.6%, 2位「短気である」46.6%, 3位「人をよく笑わせる」43.3%であり, 1位は男女共に同じであった。質問項目のうち「思う」と答えた割合の下位3位は, 男子では20位「勉強がよくできる」11.1%, 19位「みんなから信頼されている」11.3%, 18位「頭がいい」「むかつくタイプである」11.9%であった。女子の下位3位は, 20位「勉強がよくできる」「頭がいい」6.3%, 19位「みんなから信頼されている」10.0%, 18位「困難な時自分の力で解決できる」11.7%であり, 20位の「頭がいい」と19位の「みんなから信頼されている」の順位は, 男女共に同じであった。男子は, 上位3位が全て肯定的な項目で占められ, 下位3位に「むかつくタイプ」といった否定的な項目が含まれているのに対して, 女子では, 上位3位に「短気である」という否定的な項目が含まれ, 下位3位は肯定的な項目だけであった。

自己像を性別との関連性でみると, 男子は, 「勉強がよくできる」「行動力がある」「心がやさしい」「運動神経がいい」「頭がいい」「友人が多い」「落ち着いている」「困難な時に自分の力で解決できる」が女子よりも有意に多かった。

一方, 女子は, 「がんばりやである」「人をよく笑わせる」「物事を深く考える」「明るい」「むかつくタイプ」「短気」が男子よりも有意に多かった。

自己像が, 肯定・否定的に大別されるのか, 肯定・否定も併せ持っているのかを質問項目内の相関関係からみ

表2 性別と自己像との関係

| | N=2,847 | |
|----------------|---------|------|
| | 男子 | 女子 |
| 勉強がよくできる | 51.2 | 48.8 |
| 思う | 11.1 | 6.3 |
| 思わない | 88.9 | 93.7 |
| がんばりやである | | |
| 思う | 24.7 | 30.5 |
| 思わない | 75.3 | 69.5 |
| しっかりしている | | |
| 思う | 15.1 | 16.4 |
| 思わない | 84.9 | 83.6 |
| みんなから信頼されている | | |
| 思う | 11.3 | 10.0 |
| 思わない | 88.7 | 90.0 |
| 苦しいことも我慢できる | | |
| 思う | 27.4 | 27.6 |
| 思わない | 72.6 | 72.4 |
| 行動力がある | | |
| 思う | 19.8 | 16.1 |
| 思わない | 80.2 | 83.9 |
| 目立たないタイプである | | |
| 思う | 29.4 | 28.2 |
| 思わない | 70.6 | 71.8 |
| 心がやさしい | | |
| 思う | 34.8 | 24.2 |
| 思わない | 65.2 | 75.8 |
| 運動神経がいい | | |
| 思う | 28.0 | 18.2 |
| 思わない | 72.0 | 81.8 |
| くよくよしないタイプである | | |
| 思う | 24.1 | 24.0 |
| 思わない | 75.9 | 76.0 |
| 頭がいい | | |
| 思う | 11.9 | 6.3 |
| 思わない | 88.1 | 93.7 |
| 人をよく笑わせる | | |
| 思う | 34.5 | 43.3 |
| 思わない | 65.5 | 56.7 |
| 友達が多い | | |
| 思う | 41.1 | 35.4 |
| 思わない | 58.9 | 64.6 |
| 落ち着いている | | |
| 思う | 24.1 | 17.7 |
| 思わない | 75.9 | 82.3 |
| 物事を深く考える | | |
| 思う | 31.3 | 36.8 |
| 思わない | 68.7 | 63.2 |
| 明るい | | |
| 思う | 47.3 | 54.6 |
| 思わない | 52.7 | 45.4 |
| 困難な時自分の力で解決できる | | |
| 思う | 15.4 | 11.7 |
| 思わない | 84.6 | 88.3 |
| むかつくタイプである | | |
| 思う | 11.9 | 20.2 |
| 思わない | 88.1 | 79.8 |
| 短気である | | |
| 思う | 30.4 | 46.6 |
| 思わない | 69.6 | 53.4 |
| 神経質である | | |
| 思う | 23.4 | 25.9 |
| 思わない | 76.6 | 74.1 |

注) * $p<0.05$, ** $p<0.01$, *** $p<0.001$
数値は百分率を示す

てみた(表3・4). 相関係数0.30以上の項目で有意な($p<0.001$) 正の相関関係が認められた項目間は, 男子では, 「勉強がよくできる」と「しっかりしている」「みんなから信頼されている」「頭がいい」「しっかりしている」と「みんなから信頼されている」「行動力がある」「頭がいい」「落ち着いている」「困難な時に自分の力で解決できる」「人をよく笑わせる」と「友達が多い」「明るい」, 「友達が多い」と「明るい」であった. 女子では, 「勉強がよくできる」と「頭がいい」, 「がんばりやである」と「しっかりしている」, 「しっかりしている」と「みんなから信頼されている」「行動力がある」, 「人をよく笑わせる」と「明るい」, 「友達が多い」と「明るい」であった.

相関係数0.30以上の項目で有意な($p<0.001$) 負の相関関係が認められたのは, 女子の「目立たないタイプである」と「明るい」であった.

3. ストレス対処行動

ストレス対処行動に関する20の質問項目のうち, 「ある」と答えた割合の上位3位をみると(表5), 男子では, 1位「趣味や好きなことをする」43.1%, 2位「休憩やごろ寝をする」36.2%, 3位「友達に話す」30.1%であった. 女子の上位3位は, 1位「友達に話す」60.4%, 2位「趣味や好きなことをする」42.2%, 3位「休憩やごろ寝をする」39.2%であった. 男女とも上位3位に含まれる項目は同じであった. 質問項目のうち「ある」と答えた割合の下位3位をみると, 男子では20位「相談室やカウンセラーの所に行く」1.2%, 19位「動物にあたる」1.6%, 18位「保健室に行く」1.7%であった. 女子の下位3位は, 20位「動物にあたる」1.1%, 19位「相談室やカウンセラーの所に行く」2.2%, 18位「保健室に行く」3.0%であった. 男女とも下位3位に含まれる項目は同じであり, 20位と19位の順位が異なっており, 18位の「保健室に行く」は同じ順位であった. 男子の上位1位「趣味や好きなことをする」と2位の「休憩やごろ寝をする」差は, 6.9ポイントであるのに対して, 女子の1位「友達に話す」と2位の「趣味や好きなことをする」差は, 18.2ポイントであり, 「友達に話す」の男女の割合の差は, 30.3ポイント女子の方が多かった.

ストレス対処行動を性別との関連でみると, 男子は「運動やスポーツをする」「何もしない」が女子より有意に多かった.

表3 男子自己像の項目間の相関

| | 1. 勉強 がよくで きる | 2. がん ばりやで ある | 3. しっ かりして いる | 4. みん なから信頼 されている | 5. 苦し いこともガ マンできる | 6. 行動 力がある | 7. 目立た ないタイプ である | 8. 心が やさしい | 9. 運動 神経がい い | 10. くよく よしないタイ プである | 11. 頭が いい | 12. 人を よく笑わ せる | 13. 友だ ちが多い | 14. 落ち 着いてい る | 15. もの ごとを深 く考える | 16. 明る い | 17. 困難な 時に自分の力 で解決できる | 18. ムカ ツクタイ プである | 19. 短気 である |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------------|-------------------------|---------------|------------------------|---------------|--------------------|---------------------------|--------------|----------------------|----------------|---------------------|------------------------|-------------|-----------------------------|------------------------|---------------|
| 1. 勉強がよくできる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. がんばりやである | 0.203** | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. しっかりしている | 0.308** | 0.279** | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. みんなから信頼されている | 0.356** | 0.222** | 0.364** | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 苦しいこともガマンできる | 0.115** | 0.24** | 0.192** | 0.106** | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 行動力がある | 0.175** | 0.274** | 0.329** | 0.262** | 0.176** | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 目立たないタイプである | -0.037 | -0.045 | -0.041 | -0.064** | 0.032 | -0.091** | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 心がやさしい | 0.117** | 0.259** | 0.255** | 0.266** | 0.186** | 0.264** | -0.011 | | | | | | | | | | | | |
| 9. 運動神経がいい | 0.129** | 0.22** | 0.168** | 0.201** | 0.157** | 0.264** | -0.135** | 0.111** | | | | | | | | | | | |
| 10. くよくよしないタイプである | 0.061 * | 0.097** | 0.103** | 0.117** | 0.253** | 0.202** | -0.051 | 0.129** | 0.162** | | | | | | | | | | |
| 11. 頭がいい | 0.563** | 0.182** | 0.306** | 0.283** | 0.082** | 0.215** | -0.029 | 0.135** | 0.189** | 0.054 * | | | | | | | | | |
| 12. 人をよく笑わせる | 0.065 * | 0.143** | 0.101** | 0.196** | 0.101** | 0.244** | -0.19** | 0.187** | 0.248** | 0.198** | 0.107** | | | | | | | | |
| 13. 友だちが多い | 0.078** | 0.185** | 0.131** | 0.252** | 0.152** | 0.218** | -0.181** | 0.27** | 0.248** | 0.239** | 0.123** | 0.362** | | | | | | | |
| 14. 落ち着いている | 0.153** | 0.154** | 0.301** | 0.194** | 0.179** | 0.102** | 0.091** | 0.188** | 0.077** | 0.117** | 0.134** | 0.01 | 0.104** | | | | | | |
| 15. ものごとを深く考える | 0.091** | 0.17** | 0.224** | 0.119** | 0.123** | 0.188** | -0.029 | 0.134** | 0.112** | 0.062 * | 0.144** | 0.03 | 0.084** | 0.184** | | | | | |
| 16. 明るい | 0.041 | 0.174** | 0.142** | 0.178** | 0.129** | 0.246** | -0.223** | 0.236** | 0.24** | 0.268** | 0.083** | 0.445** | 0.496** | 0.035 | 0.042 | | | | |
| 17. 困難な時に自分の力で解決できる | 0.176** | 0.246** | 0.315** | 0.226** | 0.245** | 0.275** | 0.026 | 0.204** | 0.17** | 0.195 * | 0.213** | 0.107** | 0.155 * | 0.258** | 0.201** | 0.145** | | | |
| 18. ムカツクタイプである | 0.011 | 0.015 | 0.04 | 0.029 | 0.03 | 0.098** | 0.06 * | -0.038 | 0.034 | 0.045 | 0.041 | 0.013 | -0.045 | -0.019 | 0.048 | 0.003 | 0.043 | | |
| 19. 短気である | -0.001 | 0.012 | -0.033 | -0.001 | -0.056** | 0.075** | 0.011 | -0.068** | 0.015 | 0.007 | 0.028 | 0.062 * | 0.008 | -0.09 | 0.043 | 0.027 | 0.024 | 0.276** | |
| 20. 神経質である | 0.052 * | 0.051 | 0.065 * | 0.043 | -0.017 | 0.103** | 0.069** | 0 | -0.028 | -0.025 | 0.086** | 0 | -0.047 | 0.101** | 0.213** | -0.054 * | 0.101** | 0.186** | 0.151** |

注) *p<0.05,**p<0.001

表4 女子の自己像の項目間の相関

| | 1. 勉強 がよくで きる | 2. がん ばりやで ある | 3. しっ かりして いる | 4. みん なから信頼 されている | 5. 苦し いこともガ マンできる | 6. 行動 力がある | 7. 目立た ないタイプ である | 8. 心が やさしい | 9. 運動 神経がい い | 10. くよく よしないタイ プである | 11. 頭が いい | 12. 人を よく笑わ せる | 13. 友だ ちが多い | 14. 落ち 着いてい る | 15. もの ごとを深 く考える | 16. 明る い | 17. 困難な 時に自分の力 で解決できる | 18. ムカ ツクタイ プである | 19. 短気 である |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------------|-------------------------|---------------|------------------------|---------------|--------------------|---------------------------|--------------|----------------------|----------------|---------------------|------------------------|-------------|-----------------------------|------------------------|---------------|
| 1. 勉強がよくできる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. がんばりやである | 0.171** | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. しっかりしている | 0.238** | 0.301** | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. みんなから信頼されている | 0.24** | 0.222** | 0.351** | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 苦しいこともガマンできる | 0.053 * | 0.224** | 0.113** | 0.111** | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 行動力がある | 0.064 * | 0.177** | 0.324** | 0.252** | 0.088** | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 目立たないタイプである | -0.03 | -0.051 | -0.071** | -0.081** | 0.05 | -0.153** | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 心がやさしい | 0.069 * | 0.195** | 0.212** | 0.226** | 0.129** | 0.154** | 0.019 | 0.151** | | | | | | | | | | | |
| 9. 運動神経がいい | 0.055 * | 0.23** | 0.148** | 0.091** | 0.139** | 0.178** | -0.118** | 0.041 | 0.071** | | | | | | | | | | |
| 10. くよくよしないタイプである | 0.015 | 0.085** | 0.097** | 0.094** | 0.155** | 0.18** | -0.113** | 0.041 | 0.071** | 0.057 * | | | | | | | | | |
| 11. 頭がいい | 0.509** | 0.112** | 0.254** | 0.28** | 0.08** | 0.129** | -0.017 | 0.111** | 0.07** | 0.122** | 0.068 * | | | | | | | | |
| 12. 人をよく笑わせる | 0.014 | 0.112** | 0.107** | 0.091** | 0.043 | 0.129** | -0.017 | 0.111** | 0.07** | 0.122** | 0.068 * | 0.287** | | | | | | | |
| 13. 友だちが多い | 0.051 | 0.128** | 0.127** | 0.23** | 0.083** | 0.142** | -0.203** | 0.166** | 0.224** | 0.198** | 0.095** | 0.287** | 0.049 | | | | | | |
| 14. 落ち着いている | 0.083** | 0.107** | 0.172** | 0.129** | 0.133** | 0.085** | 0.079** | 0.162** | -0.003 | 0.059 * | 0.177** | -0.031 | -0.052 | 0.121** | -0.069** | | | | |
| 15. ものごとを深く考える | 0.068 * | 0.107** | 0.117** | 0.084** | 0.137** | 0.051 | 0.059** | 0.074** | 0.015 | -0.037 | 0.074** | 0.013 | -0.052 | 0.121** | -0.069** | 0.045 | | | |
| 16. 明るい | -0.003 | 0.152** | 0.119** | 0.131** | 0.055 * | 0.223** | -0.322** | 0.144** | 0.213** | 0.238** | 0.063 * | 0.382** | 0.46** | -0.041 | -0.069** | 0.001 | 0.031 | 0.246** | |
| 17. 困難な時に自分の力で解決できる | 0.044 | 0.127** | 0.213** | 0.132** | 0.245** | 0.235** | 0.025 | 0.128** | 0.083** | 0.178** | 0.127** | 0.056 * | 0.062 * | 0.142** | 0.097** | 0.045 | 0.001 | 0.031 | 0.246** |
| 18. ムカツクタイプである | 0.033 | -0.01 | 0.015 | -0.002 | -0.041 | 0.063 * | 0.04 | -0.033 | 0.018 | 0.002 | 0.018 | 0.024 | -0.038 | -0.03 | 0.044 | -0.003 | 0.044 | 0.246** | |
| 19. 短気である | 0.015 | -0.074** | 0.018 | 0.001 | -0.099** | 0.108** | -0.041 | -0.076** | 0.026 | 0.003 | 0.015 | 0.02 | -0.027 | -0.095** | 0.023 | 0.051 | -0.031 | 0.031 | 0.246** |
| 20. 神経質である | 0.05 | 0.039 | 0.035 | 0.005 | 0.01 | 0.013 | 0.144** | -0.004 | 0.014 | -0.051 | 0.017 | -0.02 | -0.053 * | 0.041 | 0.23** | -0.111 | 0.060** | 0.088** | 0.076** |

注) *p<0.05,**p<0.001

表5 性別とストレス対処行動との関係

| | | N=2,883 | |
|-----------------|----|---------|------|
| | | 男子 | 女子 |
| | | 51.1 | 48.9 |
| どうにでもなれと思う | ある | 25.4 | 27.5 |
| | なし | 74.6 | 72.5 |
| どうしようもないのであきらめる | ある | 13.8 | 12.6 |
| | なし | 86.2 | 87.4 |
| 休憩やごろ寝をする | ある | 36.2 | 39.2 |
| | なし | 63.8 | 60.8 |
| 趣味や好きなことをする | ある | 43.1 | 42.2 |
| | なし | 56.9 | 57.8 |
| 運動やスポーツをする | ある | 29.8 | 12.6 |
| | なし | 70.2 | 87.4 |
| 食べたり飲んだりする | ある | 19.6 | 28.4 |
| | なし | 80.4 | 71.6 |
| 買い物に行く | ある | 10.2 | 23.0 |
| | なし | 89.8 | 77.0 |
| 相談室やカウンセラーの所に行く | ある | 1.2 | 2.2 |
| | なし | 98.8 | 97.8 |
| 保健室に行く | ある | 1.7 | 3.0 |
| | なし | 98.3 | 97.0 |
| 人にあたる | ある | 7.9 | 11.4 |
| | なし | 92.1 | 88.6 |
| 動物にあたる | ある | 1.6 | 1.1 |
| | なし | 98.4 | 98.9 |
| ものにあたる | ある | 23.3 | 29.8 |
| | なし | 76.7 | 70.2 |
| 友達に話す | ある | 30.1 | 60.4 |
| | なし | 69.9 | 39.6 |
| 我慢をする | ある | 26.9 | 24.0 |
| | なし | 73.1 | 76.0 |
| 感じないようにする | ある | 11.0 | 11.1 |
| | なし | 89.0 | 88.9 |
| 大声を出す | ある | 13.0 | 24.6 |
| | なし | 87.0 | 75.4 |
| 人に話す | ある | 11.0 | 24.0 |
| | なし | 88.9 | 76.0 |
| ほおっておく | ある | 13.6 | 11.5 |
| | なし | 86.4 | 88.5 |
| 何もしない | ある | 10.7 | 8.0 |
| | なし | 89.3 | 92.0 |
| その他 | ある | 4.7 | 6.6 |
| | なし | 95.3 | 93.4 |

注) *p<0.05,**p<0.01,***p<0.001
数値は百分率を示す

女子は、「食べたり飲んだりする」「買い物に行く」「相談室やカウンセラーのところに行く」「保健室に行く」「人にあたる」「ものにあたる」「友達に話す」「大声を出す」「人に話す」「その他」が男子よりも有意に多かった。有意な差はなかったが、男女共に4割以上が「趣味や好きなことをする」と答えていた。

4. 心理的な支援状況

自分の気持ちを聞いてくれる人の割合の上位3位をみると(表6), 男子では1位が「友達」53.7%, 2位「母親」42.1%, 3位「父親」26.9%であった。女子では, 1位「友達」81.2%, 2位「母親」56.1%, 3位「兄弟・姉妹」33.2%であり, 「父親」は4位で22.5%であった。友達に気持ちを言わない者は, 男子の15.4%に対し女子では5.5%と, 男子のおよそ1/3であった。異性の親に気持ちを言わない割合は, 男子では23.5%に対し, 女子では42.0%と男子の1.8倍であった。

気持ちを聞いてくれる・聞いてくれないと性別との関係を見ると, 女子は男子に比し, 「母親」「兄弟・姉妹」「友達」「先輩」が有意に多かった。気持ちを聞いてくれる・気持ちを言わないと性別との関係を見ると, 女子は男子よりも「父親」に気持ちを言わないが有意に多かった。

つらいとき・悲しいときそばにいと落ち着く人の割合の上位3位をみると(表7), 男子では, 1位「友達」54.1%, 2位「母親」28.6%, 3位「兄弟・姉妹」「父親」19.2%であった。女子は, 1位「友達」78.9%, 2位「母親」44.1%, 3位「兄弟・姉妹」25.8%であった。「友達」をそばにいてほしくないと思う割合は男子9.7%, 女子5.0%であった。異性の親がそばにいてほしくないと思う割合は男子の18.5%に対して, 女子では30.5%と1.6倍であった。

つらいとき・悲しいときそばにいと落ち着く人・落ち着かない人と性別との関係を見ると, 女子は男子に比し「母親」「兄弟・姉妹」「友達」「先輩」が有意に多かった。つらいとき・悲しいときそばにいと落ち着く人・そばにいてほしくない人と性別との関係を見ると, 女子は男子よりも「父親」をそばにいてほしくないと有意に思っていた。

5. 対人関係スキル

対人関係スキル14項目のうち, 「リーダとなって友達

表6 気持ちをよく聞いてくれる人

| 表1 気持ちとよく聞いてくれる人 | | | | | | N=2,947 |
|------------------|----|--------|---------------|-------------|--------------|---------|
| | | 聞いてくれる | どちらとも いえない | 聞いて くれない | 気持ちを 言わない | 無回答 |
| 父 | 男子 | 26.9 | 33.6 | 6.3 | 30.3 | 2.9 |
| | 女子 | 22.5 | 27.4 | 4.7 | 42.0 | 3.4 |
| | | *** | | | | |
| 母 | 男子 | 42.1 | 28.1 | 4.5 | 23.5 | 1.8 |
| | 女子 | 56.1 | 19.8 | 2.7 | 20.4 | 1.0 |
| | | *** | | | | |
| | | *** | | | | |
| 兄弟・姉妹 | 男子 | 19.3 | 30.9 | 9.0 | 36.2 | 4.6 |
| | 女子 | 33.2 | 23.8 | 4.9 | 33.6 | 4.6 |
| | | *** | | | | |
| | | *** | | | | |
| 先生 | 男子 | 17.1 | 35.6 | 5.6 | 39.8 | 1.9 |
| | 女子 | 17.6 | 26.9 | 4.8 | 49.4 | 1.3 |
| 友達 | 男子 | 53.7 | 27.1 | 2.2 | 15.4 | 1.6 |
| | 女子 | 81.2 | 11.6 | 0.8 | 5.5 | 0.8 |
| | | *** | | | | |
| | | *** | | | | |
| 先輩 | 男子 | 13.5 | 34.3 | 7.5 | 42.6 | 2.1 |
| | 女子 | 17.8 | 23.1 | 3.9 | 53.9 | 1.3 |
| | | *** | | | | |
| 近所の大人 | 男子 | 4.6 | 26.3 | 8.7 | 58.3 | 2.1 |
| | 女子 | 2.8 | 14.1 | 6.1 | 75.9 | 1.1 |
| | | *** | | | | |

注) *** $p<0.001$
数値は百分率を示す

をひっぱる」以外の質問項目では、男女共に70%以上が「する」と回答している（表8）。有意な差が認められた、「友達をほめる」「困っている友人を助ける」「悲しそうにしている友達を励ます」「みんなのためになることを考える」「人がよくしてくれたときありがとうをいう」「相手の気持ちを考えて話す」「友達の頼みを聞いてあげる」「友達の意見に反対するとききちんとその理由をいう」「自分に親切にしてくれた人には親切にしてあげる」「友達の話をおもしろそうに聞く」「まちがいがあつたらすぐあやまる」の11項目は、全て男子に比し女子が多かった。

Ⅲ. 考察

1. 調査対象の特徴

性別比較を行うにあたり調査対象の性別構成を学年・地域・地区から見てみた。調査対象2,947名全体の性別割合は、男子51.9%、女子48.1%とほぼ半数ずつとなっている。学年別の割合は、3年生（25.7%）が少ない

ものの、1年生（37.3%）・2年生（36.8%）との差は10.0ポイント強であり、男女差は最大で5.4ポイントとわずかである。地域差は、関東地方と中部地方で90.3%を占めており、地域的偏りは歪めない。

2. 自己像の性別特徴

男女とも自己像の質問項目で「思う」割合が最も高かったのは、「明るい」であり、男子で47.3%、女子で54.6%とほぼ半数であり、肯定的・否定的質問項目に関わらず、「思う」割合は全体に低い。2位は男子で「友達が多い」、女子で「短気である」というように、女子では否定的な自己像が抽出されている。3位は男子では「心がやさしい」女子では「人をよく笑わせる」であった。

女子が2位に否定的な自己像を抽出していることから、男女の自己像の捉え方に特徴があるのかを、項目間の相関関係を相関係数0.30以上で有意な相関関係が認められた項目間で見ると、「むかつくタイプである」「短気である」「神経質である」といった否定的自己像間には、顕著な相関関係が認められなかった。つまり、男女共に

表7 つらい時や悲しい時にそばにいと落ち着く人

N=2,947

| | 落ち着く | どちらとも いえない | 落ち着かない | そばにいて 欲しくない | 無回答 |
|-------|------|---------------|--------|----------------|-----|
| 父 | | | | | |
| 男子 | 19.2 | 43.9 | 13.1 | 21.1 | 2.7 |
| 女子 | 16.7 | 37.4 | 12.2 | 30.5 | 3.2 |
| | *** | | | | |
| 母 | | | | | |
| 男子 | 28.6 | 40.2 | 11.1 | 18.5 | 1.6 |
| 女子 | 44.1 | 27.8 | 7.2 | 19.9 | 1.0 |
| | *** | | | | |
| 兄弟・姉妹 | | | | | |
| 男子 | 19.2 | 42.1 | 12.2 | 21.9 | 4.6 |
| 女子 | 25.8 | 35.0 | 10.8 | 23.8 | 4.7 |
| | *** | | | | |
| 先生 | | | | | |
| 男子 | 8.9 | 42.4 | 16.7 | 30.3 | 1.8 |
| 女子 | 7.8 | 32.4 | 15.4 | 42.8 | 1.5 |
| | *** | | | | |
| 友達 | | | | | |
| 男子 | 54.1 | 28.8 | 6.1 | 9.7 | 1.4 |
| 女子 | 78.9 | 14.2 | 1.4 | 5.0 | 0.5 |
| | *** | | | | |
| 先輩 | | | | | |
| 男子 | 13.0 | 47.0 | 15.4 | 22.6 | 2.0 |
| 女子 | 15.6 | 40.1 | 11.9 | 30.7 | 1.6 |
| | *** | | | | |
| 近所の大人 | | | | | |
| 男子 | 3.2 | 39.9 | 17.4 | 37.7 | 1.8 |
| 女子 | 2.4 | 25.8 | 14.9 | 55.6 | 1.3 |
| | *** | | | | |

注) *** $p<0.001$
数値は百分率を示す

自己像を否定的にだけとらえているという特徴はないといえよう。

肯定的自己像で、相関係数0.30以上で有意な相関関係が認められた項目は、男子で11項目、女子で7項目と少なく、男女共に肯定的・否定的自己像を併せ持っているといえよう。男女共に「頭がいい」と「勉強ができる」ことの相関関係が有意に認められていることは、勉強ができることが頭のいいことの大きな評価基準になっていると考えられる。

明るい人と人をよく笑わせる・友達が多いとの相関関係も男女共に有意に関係性が高く、男子の自己像の上位3位の項目と類似している。しかし、女子は「明るい」「人をよく笑わせる」「友達が多い」との相関関係は高いが、自己像の上位3位には「明るい」「人をよく笑わせる」は含まれるが、「友達が多い」は含まれず、「短気である」といった否定的自己像が含まれており、「短気である」は男子に比べその傾向は高いという特徴がある。

女子に含まれなかった「友達が多い」は、男子では女子よりも有意に思っており、男子の自己像の特徴といえよう。

つまり、男女共に自己像の各項目に対する「思う」回答率は高いもので半数程度であるが、肯定的・否定的自己像を併せ持っており、男子は女子に比し「友達が多い」、女子は男子に比し「短気である」と思っている特徴があると考えられる。

3. ストレス対処行動－女子と友達－

ストレス対処行動の上位3位は「休憩やごろ寝」「趣味や好きなことをする」「友達に話す」であり、男女共に同じ項目であった。

女子のストレス対処行動の1位である「友達に話す」は男女の割合の差が、30.3ポイント女子の方が多いことに加え、有意な差を認めた。女子の1位と2位の「趣味や好きなことをする」との差が18.2ポイントある。男子が女子に比し有意に多かったのは、「運動やスポー

表8 性別と対人関係スキルとの関係

| | | N=2,056 | |
|----------------------------|-----|------------|------------|
| | | 男子 46.6 | 女子 53.4 |
| 友達をほめる | する | 88.4 | 95.9 |
| | しない | 11.6 | 4.1 |
| 困っている友人を助ける | する | 92.1 | 97.4 |
| | しない | 7.9 | 2.6 |
| 悲しそうにしている友達を励ます | する | 88.7 | 96.9 |
| | しない | 11.3 | 3.1 |
| みんなのためになることを考える | する | 73.1 | 79.2 |
| | しない | 26.9 | 20.8 |
| 人がよくしてくれたとき 「ありがとう」をいう | する | 96.9 | 99.5 |
| | しない | 3.1 | 0.5 |
| 相手の気持ちを考えて話す | する | 86.8 | 95.1 |
| | しない | 13.2 | 4.9 |
| 友達の頼みを聞いてあげる | する | 89.3 | 96.8 |
| | しない | 10.7 | 3.2 |
| 友達の意見に反対する時 きちんとその理由をいう | する | 76.2 | 81.5 |
| | しない | 23.8 | 18.5 |
| 友達の意見に反対する時 自分の意見をいう | する | 82.8 | 82.2 |
| | しない | 17.2 | 17.8 |
| 自分に親切にしてくれた人には 親切にしてあげる | する | 96.6 | 99.0 |
| | しない | 3.4 | 1.0 |
| 友達の話をおもしろそうに聞く | する | 92.7 | 97.3 |
| | しない | 7.3 | 2.7 |
| リーダーとなって友達をひっぱる | する | 43.6 | 43.8 |
| | しない | 56.4 | 56.2 |
| まちがいがあつたらすぐあやまる | する | 89.8 | 95.1 |
| | しない | 10.2 | 4.9 |
| グループで仲良く遊ぶことができる | する | 93.5 | 93.1 |
| | しない | 6.5 | 6.9 |

注) * $p<0.05$, ** $p<0.01$, *** $p<0.001$
数値は百分率を示す

ツをする」であり、男女の割合差は17.2ポイントであり、この項目は、男子の4位であった。男子の1位「趣味や好きなことをする」と2位の「休憩やごろ寝」との割合差は6.1ポイントであり、女子の「友達に話す」は、2位との差や、男子との割合差、男子の1位・2位との割合差からみて、特徴あるストレス対処行動と言えよう。

男子のストレス対処行動は、「運動やスポーツをする」「何もしない」が女子に比し有意に多かったが、女子は、

「友達に話す」「人に話す」「相談室やカウンセラーの所に行く」「保健室に行く」といった他者に話すことでのカタルシスができることと、「食べたり飲んだりする」「買い物に行く」といった気分転換や、「人にあたる」「ものにあたる」といった攻撃、「大声を出す」といった解決策の多様な方法が男子よりもとれている。しかし、「保健室に行く」「相談室やカウンセラーの所に行く」は、男女共に5%に達せず、このことは、学校での精神保健対策を考える上で検討すべき課題と考える。

4. 心理的な支援対象の特徴

自分の気持ちを聞いてくれる人の割合の1位は、男女共に友達であった。男子は女子に比し自己像の中で有意に友達が多いといっているが、男子が自分の気持ちを聞いてくれる人として「友達」を選出している割合は53.7%であり、女子の81.2%に比べ少なく、女子の方が男子よりも友達が自分の気持ちを有意に聞いてくれると思っている。

つらいとき・悲しいときそばにいと落ちつく人として男女共に1位が「友達」を選んでいるが、男子の選出割合は54.1%、女子78.9%と男子の選出割合は有意に低い。

男子は友達が多いと女子よりも思っているが、その友達を心理的な支えとして活用したり、安寧の気持ちを抱けるかという、女子の方が遙かに依存関係を結んでいる。つまり、男子は観念的に友達が多いと思っているが、友達との相互依存関係を結ぶ力は女子よりも弱いと考えられる。

自分の気持ちを聞いてくれる人の割合の2位は、男女共に「母親」であり、性別間の割合の差は、14ポイントであり、友達の性別間の割合の差27.5ポイントよりも低く類似した傾向と考えられる。しかし、女子は第1位の「友達」と2位の「母親」との差が25.1ポイントあり、女子にとって友達の果たす役割の大きさがうかがえる。2位の「母親」は男女共につらいとき・悲しいときそばにいと落ち着く人でも2位に選出されており、男子の割合28.6%に対し女子は44.1%と「母親」への期待が高い。

女子はストレス対処にあたって上手く人的な活用が男子に比べできると言うことを前述したが、「友達」や「母親」などが話を聞いてくれたり、話すことで落ち着

つけるという体験が関与しているとも考えられる。しかし、異性の「父親」に対しては、つらい時や悲しいときにそばにいてほしくない思っている。

そこで、このように他者との円滑な対人関係の形成にあたっては、関係を結ぶ様々な技術が必要となる。リーダーとなって友達を引っぱる以外は、男女共に70%以上が「する」と回答していることから、男女共に対人関係スキルは高いといえる。しかし、性別で有意な差を認めた項目全てが、女子の割合が高いことは、多様な対人関係スキルを女子は持っていると考えている。

男子は女子に比し、つらい・悲しいといった心理的緊張状態にあるときに、周囲にいる他者を上手く活用し緊張緩和をはかるといった方法が上手ではない。中学生が高校生や大学生に比し相対的に疎外感の強い世界に生きている⁶⁾と指摘されているが、本調査結果との関連で見れば、その傾向は男子に多いともいえる。

5. 中学生を対象とした思春期精神保健活動の課題

中学生のストレス対処行動、および心理的支援対象の特徴から、自分の気持ちを聞いてくれる人・つらいとき悲しいときにそばにいてほしい人の2位に「母親」が選出されていることや、女子にとって、「父親」は、つらいとき悲しいときにもそばにいてほしくないと思っていることなどから、中学生を対象とした思春期精神保健活動の課題には、両親の子どもへの働きかけの重要性が再確認できたと考える。

特に男子は前述したように、女子に比しストレス対処行動の幅が狭く、かつ人的支援をうまく活用できていないという現状からみると、家庭内において母親が心理的な支援者として果たす役割は大きいと考える。しかし思春期は、依存から自立への過渡期であり、依存・自立の間の揺れが大きい時期である。さらに異性の親を避けたり、遠ざけることによって無意識的な近親相姦感情を処理するといわれる⁷⁾。そのため、異性である男子・女子の子どもをよく理解ができないと認識してしまい、上手な心理的距離の確保に困難さを感じてしまう。

少子化や地域の交流・支援の少ないことは、親が兄弟・姉妹間や他人の子どもの発達と比較検討する機会が減少し、親の孤立・不安を引き起こす。そこで、思春期の子どもの心身両面における発達の特徴や、それに応じた相談を、本人のみならず家族が気軽にできる機会を地域に

設けることが、思春期精神保健活動に関わる者に求められていると考える。

まとめ

関東・中部地方が9割を占める公立の中学生2,947名を対象に性別と自己像並びにストレス対処行動を検討した。その結果

- 1) 男女共に自己像の各項目に対する「思う」回答率は高いもので半数程度であるが、肯定的・否定的自己像を併せ持っており、男子は女子に比し「友達が多い」、女子は男子に比し「短気である」と思っている特徴がある。
- 2) ストレス対処行動として女子には、「友達に話す」特徴がみられた。
- 3) 男子は友達が多いという自己像を持っているが、女子に比べストレス対処行動に友達を活用していない。
- 4) 自分の気持ちを聞いてくれる人・つらいとき悲しいときにそばにいてほしい人の2位に男女共「母親」が選出されている、女子の30.5%にとって「父親」は、つらいとき悲しいときにもそばにいてほしくないと思っていることなどから、中学生を対象とした思春期精神保健活動の課題が示唆された。

本研究は、今後調査地域を拡大して検討を深める必要がある。

本研究は、厚生省平成11年度児童環境づくり等総合調査研究事業の助成を受けて行われた。

引用文献

- 1) 文部省学校基本調査報告書,平成10年度版;93-96, 1998.
- 2) 内閣総理大臣官房広報室編, 月刊世論調査, 2;53, 1993.
- 3) 深谷昌志: 孤立化する子どもたち, NHKブックス, 1998.
- 4) 三浦正江他: 中学生における心理的ストレスの継続的変化, 教育心理学研究, 44; 368-378, 1996.
- 5) 思春期児童ストレス対応調査研究会編, 平成10年度児童環境づくり等総合調査研究事業研究報告書;20-38, 1999.
- 6) 山本利和編: 発達心理学,培風館;134, 1999.
- 7) Edwin R. Wallace, IV, M.D.: Dynamic Psychiatry in Theory and Practice, 1983, 馬場謙一監訳, 力動精神医学の理論と実際;51, 医学書院, 1996.

(受稿日 平成13年2月23日)